

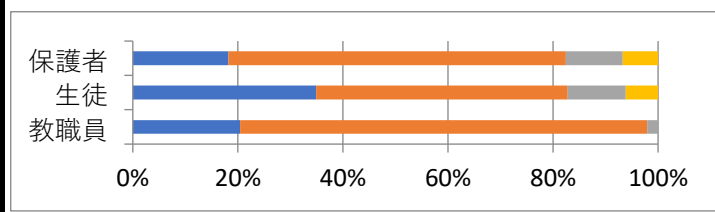
# 令和4年度 学校評価

■ そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思わない   
 ■ そう思わない   
 ■ わからない

## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

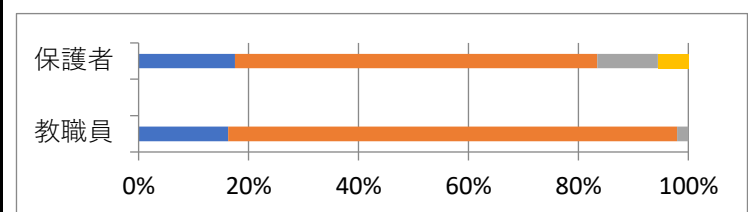
### 1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。



### 2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）



#### 考察

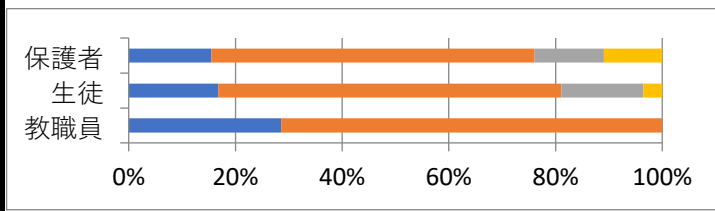
「1 一人一人の生徒の尊重」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合をR3と比較すると、教職員96%→98%、生徒88%→83%、保護者84%→82%と概ね良好であるが、生徒・保護者の評価が依然減少傾向にある。「尊重されていない」と回答している生徒が17%いることを真摯に捉え、一人一人の子どもが大切にされていると生徒も保護者も実感できるような教師の関わりが必要であると言える。

「2 道徳・心の教育の充実」はR3→R4で比較すると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が教職員96%→98%、保護者85%→83%となった。行事に向けての取り組みや道徳の授業における他者との意見交換・班活動などが、コロナ禍で行えない時期があった昨年度に比べ充実していたと考えられる。保護者は下降しているものの8割は超えており、今年度親子道徳として授業参観で共に学んでいただけたことは有意義であったと考える。

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

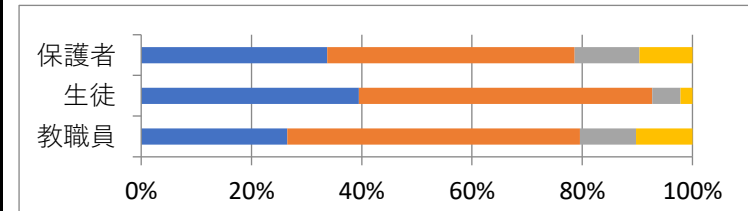
### 3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



### 4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。



#### 考察

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合をR3→R4で比較すると、「3 授業力向上」は、教職員98%→100%、生徒77%→81%、保護者84%→76%であった。探究型の授業が増えたことが増加の一因と考えられる。一方、保護者が直接授業を見る機会はタブレットの使用に関するものだけだった。

「4 タブレット端末活用」は、教職員94%→80%、生徒92%→93%、保護者84%→79%と生徒以外は下降している。多くの生徒が調査や思考、アウトプットのツールとして活用するなど、情報活用能力に自信をもって学習に取り組んでいる。家庭学習（土日課題やドリル）への活用も増えてきている。一方、ゲームや漫画・動画の視聴など学習以外への不適切な使用も見られたことが、評価の低下の要因だと考えられる。ICTを有効に活用して学びを深めていきたい。

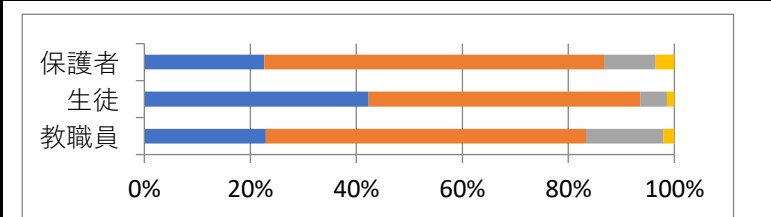
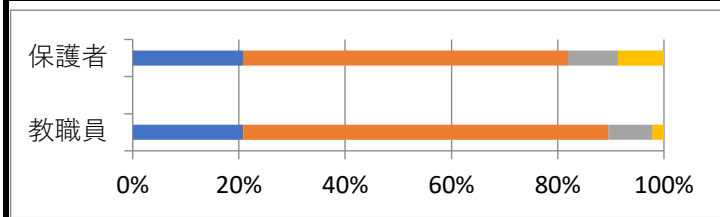
③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制

6 共生社会を担う人材の育成

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察

「5 学校の支援体制」では、R3→R4の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は教職員94%→90%、保護者92%→82%である。微減ではあるが、おおむね高い評価を得られていることがわかる。微減の要因の一つはコロナ禍によって新入生説明会や懇談会等、啓発の機会が減っていることが考えられる。校内においては各学期ごとに特別支援教育推進委員会を開催するとともに、必要に応じてケース会議を実施し、教育支援計画を立ててきめ細やかな支援を実施している。新入生については「連絡シート」の記入を行い、必要に応じて面談を実施し、スムーズな移行支援を目指している。今後、保護者の啓発の機会を設けていきたい。

「6 共生社会を担う人材の育成」ではR4の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は教職員83%、生徒94%、保護者87%と高い評価である。本校では特別な支援を要する生徒たちが合理的配慮を受けながら授業や行事に参加している。互いを認め合い、尊敬しあう場面も見られる。共に学ぶことが当たり前になっている現状が評価につながっていると考えられる。今後、行事等の中で子どもたちの姿を見ていただき、共に育っている様子を見ていただきたい。

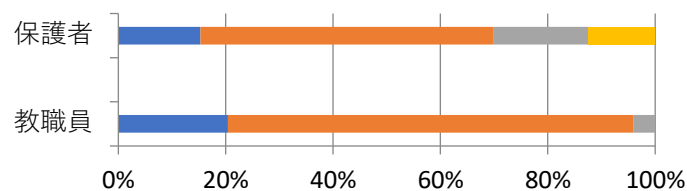
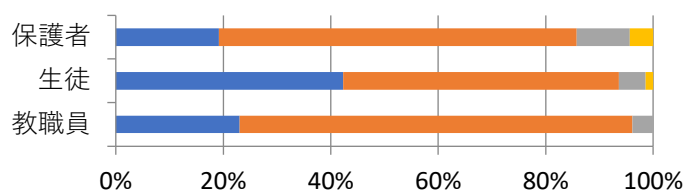
④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止

8 家庭や地域との連携協力

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



考察

「7 安全と事故防止」では、R4の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は保護者86%、生徒95%、教職員96%である。R3の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は保護者93%、生徒96%、教職員96%で、保護者93%→86%の評価の要因としてはICTを多様化するようになり、啓発のプリント類もロイロノートで発信するようになったことで保護者に伝わりにくくなっていることが1つの要因として考えられる。また、コロナ禍もあり保護者や地域と連携した活動や学校全体での啓発活動が少ないことも考えられる。ロイロノートの情報を共有してもらうなど、今後、発信の在り方を検討していきたい。教職員に関しては、ICTを利用することで広く情報を発信することができている。今後も改善を行いながら、多くの人にもっと伝わりやすい情報発信を心がけていきたい。

「8 家庭や地域との連携」については、R3年度→R4年度の比較をすると「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は教職員100%→96%、保護者72%→70%でありあまり変化は無い。保護者は「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が30%であり、コロナ禍によって、学校と家庭・地域が連携して行事の運営や支援等が思うようにならなくなっている状況があると考えられるが、今年度は授業参観や、地域の行事なども行われ、学校と家庭・地域の連携を密にする一つのきっかけとなった。今後も授業参観などの様々な取り組みによって、家庭や地域の連携を深めていく必要があると考えられる。

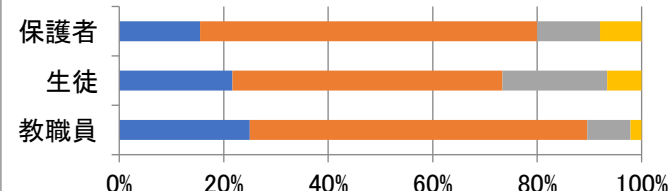
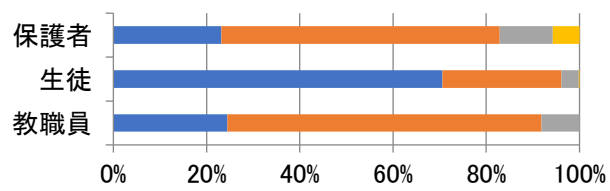
⑤本校の教育

9 学校教育目標の理解

10 身につけさせたい7つの力について

学区教育目標「人とつながる 社会とつながる 未来とつながるESD」を理解し、教育活動を行っています

「7つの力」を意識して、教育活動の計画づくりや授業内容の改善に取り組んでいますか。



考察

R3→R4の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を比較してみた。「9 学校教育目標の理解」については、職員98→92%、生徒95→96%、保護者84→83%である。様々な機会を捉えて学校教育目標についての意識付けを進めている結果、教職員・生徒・保護者いずれにおいても高い割合を推移している。保護者においては「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が17%となっていることを受け止め、様々な機会を捉えて保護者に十分に周知することが必要と考えられる。

「10 身につけさせたい7つの力」については、職員96→90%、生徒73→73%、保護者57→80%という結果であった。職員の意識に若干の低下が見られ、生徒においては昨年度との変化は見られない、一方で保護者においては大きく上昇している。改めて職員が「身につけさせたい7つの力」を丁寧に意識させて学習活動に取り組ませることが必要であると考えられる。保護者については、ホームページや通信などによって保護者に学校の教育活動について周知されていたことが、一つの要因と考えられる。

## 来年度の具体的な取組について

- ・来年度の道徳でも家庭教育の日や通信などを利用して保護者に情報を発信し、保護者と協力しながら生徒の心を育てていく。また、地域の行事などを通して地域の方と交流し、協力しながら地域とともに生徒を育てていく。
- ・来年度も引き続き、意欲的に授業に取り組むことができるような授業づくりを行っていききたい。そのために、各授業の目標（めあて）や単元を通した計画等を見通した授業づくりを行う。さらに、ICTを効果的に活用した授業づくりを工夫していききたい。そのために、研修の機会を設けたり、教職員同士での情報交換を密にしてよりよい各教科・内容に合った活用方法を見出していく。
- ・来年度も引き続き、部活動の協力や保健体育科の授業改善を進めていく。そして、意識改善から行動変容につながるような取組を委員会を中心に行う。
- ・不登校対策については、幼少中連携は更なる強化が望まれる。また、関係機関との連携を深め生徒とその家庭を支援していききたい。いじめ防止については、道徳教育や人権教育などを通し、生徒の人権意識を高め適切なコミュニケーション能力を身につけさせたい。
- ・来年度も引き続き新入生の連絡シートの活用や面談を行い、スムーズに移行支援ができるよう小学校や家庭と連携しながら教職員全体で共通理解・実践に努める。また、新入生保護者説明会や職員研修等などで更に保護者や職員に特別支援教育についての啓発に努めていく。
- ・小中学校と地域の安全協会が連携しての取組は、来年度も引き続き行っていききたい。本校の課題である登下校中の事故防止については、各教科での学習を通し、交通安全や自然災害などによる障害の防止に対する知識を身につけ安全に対する意識を高めていききたい。
- ・教育方針・目標の理解については、学校のホームページ、各儀式的行事の際、および、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通してわかりやすい形で情報発信を行いたい。
- ・これまで続けたE S Dの研究及びキャリア教育で構築してきた、課題発見・課題解決力を身に付けるための授業・教育活動の実践を生かし、これからの社会を生きていく生徒たちに、キャリアプランニング力を含む「本校で身に付けたい7つの力」の育成を推進していききたい。
- ・1年生の自転車乗用中の事故防止に向け、新入生保護者会で学校、家庭、地域関係機関と連携して事故防止に努めるよう連絡を行っていききたい。また、委員会活動を通し、登下校中の事故防止及び交通ルールの順守など交通安全に対する意識を高めていききたい。

## 学校関係者評価

- ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応
  - ・生徒が教員に話しやすい関係ができており、生徒の生活が安定していると感じた。
- ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進
  - ・興味を持って楽しく授業に取り組んでいると感じた。
- ③教員が子どもと向き合うための体制の整備
  - ・生徒一人一人を大切にしていると感じた。
  - ・体育の教員がとても元気が良かった。
- ④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進
  - ・自転車事故等に十分気をつけさせてほしい。
  - ・人工芝が少しめくれているところがあり、つまづかないか気になった。
- ⑤本校の教育
  - ・身につけさせたい力を具体的に7つあげており、わかりやすい。
  - ・学校便りやホームページなどで学校の現状がわかり、とても良い。
  - ・自ら考えて行動できることが必要と思う。